
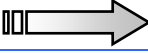



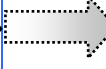

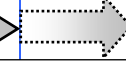


















6-1 実現方策の検討 事業概要と実施スケジュールより

矢印の種別		意味
形状		施策の実施時期を具体的に予定しているもの
		既に施策を実施しており今後も継続していくもの
		個別施策を実施した後も継続的に向上に努めるもの

検証		基本目標：安心して飲める水道水を供給します！					
評価	施策目標	具体的施策	事業概要	実施スケジュール			備考
				5年以内 (H24~28)	10年以内 (H29~33)	将来 (H34~)	
△	浄水施設の整備・充実	春日浄水場及び芳田浄水場の廃止	春日浄水場と芳田浄水場を廃止する（簡易水道統合）				平成28年度末に廃止予定
○		遊離炭酸の除去と腐食性の改善	西脇地区に遊離炭酸の除去、腐食性の改善、クリプトスポリジウム等対策としての浄水場を3箇所整備する				
○	水質監視体制の充実	浄水場の新設					
○		水質検査箇所の増設	西脇地区で水質監視を4箇所増加し8箇所にする				
△	給水施設の衛生管理	連続自動水質監視装置の整備	連続自動水質監視装置を13箇所に設置する				平成26~32年度に整備予定
○		貯水槽水道の衛生管理の向上	設置者等へ指導・助言を継続する 直結給水の拡大を検討する				
○	おいしい水の供給	鉛製給水管の取替え	今後10年間で取替えを完了する				平成32年度に完了予定
○		残留塩素濃度の適正管理	残留塩素濃度を最大0.4mg/L以下に低減する				

検証		基本目標：いつでも安定して給水します！					
評価	施策目標	具体的施策	事業概要	実施スケジュール			備考
				5年以内 (H24~28)	10年以内 (H29~33)	将来 (H34~)	
○	水源の維持と活用	自己水源の水量維持	揚水量調査と水源能力増強改良工事を実施する				浄水場整備に合わせて既存6水源について適時実施予定 ・浄水場整備に合わせて水源能力増強改良工事を実施した。
		県営水道の計画的活用	適量を計画的に受水する				継続的に実施する ・県営水道受水量は現在日平均約5,150m ³
○	施設の効率的整備・活用	浄水施設能力の適正化	西脇地区に浄水場を3箇所整備する				浄水場を3箇所整備予定（『安心』に関する施策と共通） ・上戸田浄水場H27.3完成 ・大木浄水場H28.12完成 ・第3浄水場は中止
△		配水池貯留能力の適正化	貯留時間が不足する配水池の容量を増設及び新設する				浄水場整備に合わせて配水池3箇所を増設及び新設予定 ・水需要の変化に伴い、配水池3箇所の増設及び新設等は再検討
△							その他の配水池は水需要に応じて整備時期を決定する
○	耐震化の推進	基幹構造物の耐震性確保	耐震・劣化診断調査と必要な耐震補強工事を実施する				6箇所の配水池を平成26~32年度に実施予定 ・耐震診断では、配水池の耐震化率は96%。水需要により耐震補強工事の実施を検討
○		基幹管路の耐震性確保	耐震性の低い管路を優先的に布設替する				平成33年度までに完了予定 ・更新計画10年→15年、総事業費10億円→15億円、更新延長進捗率55%（20km中11km R2末）
○	危機管理体制の充実	危機管理マニュアルの整備・充実	危機管理マニュアルを完成させ具体的な行動計画を示す				平成24年度までに完了予定 ・平成10年に「兵庫県水道災害相互応援に関する協定」を締結。順次、危機管理マニュアルを刷新
○		緊急時応援協力体制の充実	他市町・団体との緊急時応援協力体制を強化する				継続的に実施する ・協定に基づき机上訓練と実務訓練を年2回行い、他市町との緊急時応援協力体制を整えている
○		災害時給水拠点の充実	耐震性貯水槽の新設及び配水池緊急遮断弁を設置				関連する施策と調整しつつ実施時期を決定する ・耐震性貯水槽はH27年にミライエに新設、市内に2箇所設置。配水池緊急遮断弁はH27.2に大谷山、R2.9に春日配水池に設置
中止		配水ネットワーク体制の充実	配水区域間及び水道事業間の給水連絡管を整備する				重春比延地区給水連絡管を平成24~27年度に整備予定
○		応急給水機器の適正配備	給水車、ポリタンク、ポリパックを保有配備する				平成25~29年度に配備予定 ・R2.3に給水車購入。緊急時用ポリパックの在庫を4千枚に設定。上戸田浄水場倉庫に常備している

○	その他	ポンプ所の整備	水圧不足解消及び芳田配水池送水ポンプを整備する  ・H28.3に芳田浄水場を廃止し、加圧ポンプ室を設置	平成32年度までに 関連施策と調整し つつ整備予定
---	-----	---------	---	---------------------------------

検証		基本目標：健全な事業経営を持続します！					
評価	施策目標	具体的施策	事業概要	実施スケジュール			備考
				5年以内 (H24~28)	10年以内 (H29~33)	将来 (H34~)	
△	老朽施設の更新	春日浄水場及び芳田浄水場の廃止	春日浄水場と芳田浄水場を廃止する  ・芳田浄水場はH28.3廃止 ・春日浄水場は休止中				平成28年度末に廃止予定（『安心』に関する施策と共通）
○		童子山配水池を廃止する	 ・H27年10月に廃止				平成26年度に廃止予定
○		老朽構造物の更新整備	黒田庄地区3浄水場の膜モジュールを交換する  ・定期的に交換を実施				平成24~27年度に交換し、その後5~7年毎に交換予定
○		老朽管路の更新整備	国庫補助事業により約20kmの老朽管を更新する  ・更新計画10年→15年、総事業費10億円→15億円、更新延長進捗率55%（20km中11km R2末）				事業完了後は緊急度の高い路線から更新予定
○	事業運営の効率化	職員構成の適正化	職務遂行能力の向上と技術の継承を図る  ・適正化を継続的に実施				平成24年度から継続的に実施予定
○		外部委託の適正化	個別委託を推進し、第三者委託への移行の適否を検討する  ・施設管理、水道閉開栓・料金徴収業務等の外部委託を実施				継続的に実施する
△		事業効率の向上	西脇地区と黒田庄地区・芳田地区を事業統合する  ・芳田地区の統合はH28.4、西脇地区と黒田庄地区の統合は令和3年度中に認可予定				事業統合認可を申請予定
△	財務体質の強化	財政収支の改善	コスト意識の高揚と施設の効率的運用を図る  ・経費の削減に継続的に取り組んでいるが、厳しい経営状況が続いている				継続的に実施する
○		料金水準・体系の適正化	市内の水道料金を統一する  ・H27年9月に市内水道料金を統一				平成26年度の料金統一を目指す
○	お客さまサービスの向上	料金収納方法の改善	新たな料金収納方法を検討し未納率の低減に努める  ・銀行・窓口支払い、口座振替に加え、コンビニ収納、スマホ決済を導入				継続的に実施する

○	お客さまとの 接遇向上	お客さまへの対応及びサ ービスの充実に努める ・継続的に実施中	→	継続的に実施する
△	広報・広聴 活動の充実	広報紙やホームページの 内容を充実させる ・コンテンツがまだ不足している	→	継続的に実施する

検証		基本目標：環境保全に貢献します！					
評価	施策目標	具体的施策	事業概要	実施スケジュール			備考
				5年以内 (H24~28)	10年以内 (H29~33)	将来 (H34~)	
○	環境負荷の 低減	省電力・省エ ネルギーの 推進	加圧設備その他機器を省 電力・省エネ仕様に改善 する ・継続的に実施中	→			継続的に実施する
○		再生可能エ ネルギーの 利用促進	利用促進を前向きに検討 する ・上戸田浄水場でソーラー発電を導入	→			浄水場新設に際して 整備することを 検討する
○	水資源の有 効活用	漏水防止対 策の推進	漏水を早期に発見し修復 する（特に黒田庄地区） ・調査範囲を特定し、継続的に漏水調査・漏水修繕を行っている	→			継続的に実施する
△	資源循環の 推進	建設副産物 のリサイク ル利用推進	再資源化の徹底と浄水汚 泥の有効利用方法を検討 する ・浄水汚泥の有効利用を検討しているが実現できていない	→			継続的に実施する